

修士論文（要旨）

2024年1月

高齢者を対象とした年齢差別体験尺度の開発とその生活に与える影響

指導 杉澤 秀博 教授

国際学術研究科
国際学術専攻
老年学学位プログラム
222J5005
趙 鵬寧

Master' s Thesis(Abstract)

January 2024

Development of an Age Discrimination Experience Scale for Older Adults and Its
Influences on Their Lives

ZHAO PENGNING

222J5005

Master of Arts Program in Gerontology

Master' s Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Hidehiro Sugisawa

目次

第1章：緒言	1
1.1 日本における高齢者を対象とした年齢差別研究の課題	1
1.2 日本における年齢差別経験の尺度の作成	1
第2章 研究方法	1
2.1 尺度開発の段階	1
2.2 第1段階：質問項目群の作成	1
2.3 第2段階：内容的妥当性の検証	1
2.4 第3段階：構成概念妥当性と信頼性の検証	1
2.4.1 対象	1
2.4.2 調査方法と実施期間	1
2.4.3 調査項目	1
2.4.4 解析方法	2
2.5 第4段階：予測的妥当性の検証	2
2.5.1 対象	2
2.5.2 調査方法と実施期間	2
2.5.3 調査項目	2
2.5.4 統計解析法	2
2.6 倫理的配慮	2
第3章 結果	2
3.1 第1段階：質問項目群の作成	2
3.2 第2段階：内容的妥当性の検証	2
3.3 第3段階：構成概念妥当性と信頼性の検証	2
第4章 考察	3

参考文献

第1章：緒言

1.1 日本における高齢者を対象とした年齢差別研究の課題

エイジズムは、Butlerが「高齢であることを理由とする、人びとに対する系統的なステレオタイプ化と差別のプロセス」と定義した事象である。このようにエイジズムは、認知のレベルで評価されるステレオタイプと行動のレベルで評価される差別で構成されている。

欧米では、年齢差別に関する研究蓄積が数多くある。日本においては職場での年齢差別経験が職場満足度を介して抑うつに対して有意な間接効果をもっていることを明らかにしている原田らの研究に限られている。このように日本において差別される側に関する研究が少ないことの原因には、年齢差別の経験を評価する尺度が日本において作成されていないことと考えられる。

1.2 研究目的

本研究では、Palmoreの作成した尺度を参考に、日本の高齢者を対象とした年齢差別経験尺度を作成することを目的とする。その妥当性は、内容的妥当性、構成概念妥当性ととも予測的妥当性の側面から評価する。予測的妥当性は、年齢差別経験がウェルビーイング（身体健康、精神健康、生活満足度、社会参加）に影響があるか否かによって評価する。

第2章 研究方法

2.1 尺度開発の段階

第1段階は質問項目群の作成、第2段階では内容的妥当性の検証、第3段階では構成概念妥当性、第4段階では予測的妥当性の検証であった。

2.2 第1段階：質問項目群の作成

各構成概念を測定するための質問項目群を作成した

2.3 第2段階：内容的妥当性の検証

シルバー人材センターの会員を対象としたフォーカスグループインタビューにより、尺度の項目を削除・修正を行った。インタビューの実施時期は2023年9月であった。

2.4 第3段階：構成概念妥当性と信頼性の検証

2.4.1 対象

東京都の町田市シルバー人材センターの65歳以上の会員全員に357人を対象に無記名自記式調査を実施した。

2.4.2 調査方法と実施時期

自記式の調査票を用い、対象者に直接の配布とともに郵送法によって送付し、回収は郵送法で行った。調査は2023年10月に行った。

2.4.3 調査項目

内容的妥当性が確認された項目を用いた。

2.4.4 解析方法

構成概念妥当性については、探索的因子分析を用いて、本研究で設定した構成概念がデータで検証されるか否かを確認した。

2.5 第4段階：予測的妥当性の検証

2.5.1 対象

尺度の構成概念妥当性と信頼性の検証に用いたデータを利用した。

2.5.2 調査方法と実施時期

尺度の構成概念妥当性の信頼性の検証に用いたデータを利用した。

2.5.3 調査項目

尺度の構成概念妥当性と信頼性が確認された尺度、ウェルビーイング指標、調整変数で構成した。

2.5.4 統計解析法

各ウェルビーイング指標（精神健康、生活満足度、社会参加）を従属変数に、差別経験尺度と調整変数を独立変数に投入し、重回帰分析を行った。

2.6 倫理的配慮

対象者に対し、調査の目的、調査内容、調査への協力・拒否の自由、拒否した場合も不利益はないこと、個人情報保護、データ管理、研究結果の活用法等を文書で説明し、調査への同意を得た。本研究は、桜美林大学研究倫理委員会（承認番号：23026）の承認を得て実施した。

第3章 結果

3.1 第1段階：質問項目群の作成

Palmore の尺度を基づき、既存の研究蓄積を参考し、質問項目群を作成した。

3.2 第2段階：内容的妥当性の検証

フォーカスグループインタビューにより、質問項目の削除・修正が完成した。

3.3 第3段階：構成概念妥当性と信頼性の検証

1)回収状況と分析対象者の属性

対象者 357 人の中で回答者は 275 件であった。回収率は 77.0%であった。対象者の平均年齢は 75.9（標準偏差＝±4.4）歳、性別は男性 72.0%であった。

2) 差別の質問項目の回答分布

少なくとも一回以上年齢差別を経験した回答者数は 79.6%であった。

3)構成概念妥当性の検証

探索的因子分析により、概念的妥当性を検証した。 α 係数により、信頼性を検証した。

4)予測的妥当性の検証

年齢差別経験は精神健康と精神健康と有意な関係を見られた。社会参加と社会的ネットワークと有意な関係を見られなかった。

第4章 考察

本研究では、Palmore の作成した尺度を参考に、日本の高齢者における年齢差別経験尺度を作成することを目的とした。作成された尺度は、2 因子 6 項目「侮辱」「無視・回避」で構成された。この尺度の信頼性はクーロンバックの α 係数により確認された。加えて、年齢差別経験が精神健康と生活満足度に有意な影響するという結果が得られたことから、予測的妥当性も確認された。

本研究の限界としては、構成概念妥当性の検証をシルバー人材センターの会員に限定している点である。特定の集団への調査では、特定の属性を持つ可能性があり、分析結果が一般化することが困難である。加えて、シルバー人材センターに参加していることは、社会的活動が活発と考えられ、研究結果にバイアスをもたらす可能性がある。

文献

- 1) Butler R. : Ageism. In G. Maddox (Ed.), *The Encyclopedia of Aging* (2nd ed., pp. 38-39). New York: Springer Publishing (1995).
- 2) Butler R. : Combating ageism. *International Psychogeriatrics*, 21(2), 211-211(2009).
- 3) Levy B R., Banaji M R. : Implicit ageism. In *Ageism: Stereotyping and prejudice against older persons*. Massachusetts Institute of Technology Press (2002).
- 4) Allen JO., Solway E, Kirch M, : *Everyday Ageism and Health*. University of Michigan National Poll on Healthy Aging: Ann Arbor, MI. (2020)
- 5) Erdman Palmore. PhD. : The Ageism Survey: First Findings, *The Gerontologist*, Volume 41, Issue 5, 1 October 2001, Pages 572-575 (2001) .
- 6) Abrams D., Eilola T., Swift H. : Ageism and age categorization: What' s the evidence and where to next? *Group Processes & Intergroup Relations*, 12(1), 43-58 (2009).
- 7) Pascoe E A., Smart Richman L. : Perceived discrimination and health: a meta-analytic review. *Psychological bulletin*, 135(4), 531-554 (2009).
- 8) Chang E Shien, Sneha Kanno, Samantha Levy, et al. : Global reach of ageism on older persons' health: A systematic review (2020) .
- 9) Officer A, de la Fuente-Núñez V. : A global campaign to combat ageism. *Bull World Health Organ.* 1; 96(4): 295-296 (2018) .
- 10) Abrams D., Swift H J., Drury, L. : Old and unemployable? How age - based stereotypes affect willingness to hire job candidates. *Journal of Social Issues*, 72(1), 105-121 (2016).
- 11) Lyons, Anthony, et al. : Experiences of ageism and the mental health of older adults. *Aging & mental health*, 22.11: 1456-1464 (2018).
- 12) Coudin Geneviève, ALEXOPOULOS Theodore. : 'Help me! I' m old!' How negative aging stereotypes create dependency among older adults. *Aging & mental health*, 14.5: 516-523 (2010),
- 13) 原田謙, 小林江里香. : 高齢就業者の職場における世代間関係と精神的健康;媒介変数としての職場満足度. *老年社会科学*, 41.3: 306-313 (2019).
- 14) 原田謙, 杉澤秀博, 杉原陽子. : 日本語版 Fraboni エイジズム尺度 (FSA) 短縮版の作成; 都市部の若年男性におけるエイジズムの測定. *老年社会科学*, 26(3), 308-319 (2004).
- 15) Jackson Sarah E, HACKETT Ruth A, STEPTOE, : Andrew. Associations between age discrimination and health and wellbeing: cross-sectional and prospective analysis of the English longitudinal study of ageing. *The Lancet Public Health*, 4.4: e200-e208 (2019).
- 16) Furunes Trude, MYKLETUN, Reidar J. : Age discrimination in the workplace: Validation of the Nordic Age Discrimination Scale (NADS). *Scandinavian Journal of Psychology*, 51.1: 23-30 (2010).
- 17) Allen JO, Solway E, Kirch M, et al. : The Everyday Ageism Scale: Development and

- Evaluation. *J Aging Health*. ;34(2):147-157 (2022).
- 18) KESSLER Ronald C, et al. : Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychological medicine*, 32.6: 959-976 (2022).
- 19) 古谷野亘, : 老後の幸福感の関連要因; 構造方程式モデルによる全国データの解析, 理論と方法 8, 111-125 (1993).
- 20) 井上彩乃, 田高悦子, 白谷佳恵, et al. : 地域在住高齢者における社会活動尺度の開発と信頼性・妥当性の検討. *日本地域看護学会誌*, 19.2: 4-11 (2016,).
- 21) 栗本鮎美, 栗田主一, 大久保孝義, et al. : 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6) の作成と信頼性および妥当性の検討. *日本老年医学会雑誌*, 48.2: 149-157 (2011) .